京城新聞

●偶感一束　不及生

▲七月十四日伊藤公の歸任を好いしほとしてトウ〳〵鶴原總務長官には後足に砂を蹴つて日本に歸つて了つた、ソレが一昨日着の東電が「鶴原總務長官の後釜は暫らく空位となし置く筈」と傳へて居る、嗚呼此の東電を耳にした吾輩はタトヒ氏の手腕の如何として見るべきなく、事蹟の此れといつて稱揚すべきものなしとはいへ、苟も氏が總務長官といふ立派な地位に對して其の去るに臨んで送別會の一つもせず、又其の幕僚及び恨怨の者の見送りを除くの外、其の公職に對して何人の見送りさへも受くることが出來なかつたのを思ふと實際氣の毒でも悄然とするの外はない、併し三年鳴かす蜚ばすの氏であつたから思ふに其の胸中では送別會も何にもあツたものではなく、寧ろ鳴かない序に默つて歸國するに越したことはないとソコで殊更に統監の一行に投じてコツソリと歸國したのではあるまいかとも思はるゝのである、果せる哉ある旗亭の某阿嬌はさも物知り顏に語つて曰く「鶴原の旦那は何うも朝鮮は虫が好かんから今度は滿州の方へ行きますとサ……」と阿嬌の言幷びに巷間の揣摩臆測固より信を措くに足らざるも、兎も角も吾輩は其の何れの天地をも問はず、氏が將來新進溌剌の英氣を鼓舞して大々的に鳴いたり蜚んだりすることを希望して已まぬのである、

▲前京城民團議員等は一般の居留民に向つて近頃總辭職の理由を發表した、理由書は滔々數千言に渡り、理路明確、情義瞭然、讀むものをして自づと議員等の決心を察し併せて彼れ官憲の無謀なるを切に感ぜしむるものがある、而り吾輩は何にも昨今の場合四邊の氣象を憚からず、進んで口舌に訴へ、以て一般居留民の賛感をして更に切ならしむるを希望すると同時に他の地方に於ける民團議員にありてもヤハリ一日も早く此の擧に傚ひ一般の居留民に對して理由書を發表して貰ひたいものである、

●日米間の新條約

▲韓國に關する條約

日本國皇帝陛下及亞米利加合衆國大統領は韓國に於て其の臣民又は人民の發明、意匠、商標及著作權の保護を確保せんことを欲し之が爲め條約を締結する事に決し日本國皇帝陛下は亞米利加合衆國駐箚特命全權大使正三位勳一等男爵高平小五郎を亞米利加合衆國大統領は其の國務大臣ロバート、ベーコンを各其の全權委員に任命せり因て各全權委員は互に其委任狀を示し其の良好妥當なるを認め諸條を協議決定せり

第一條　日本國政府は發明、意匠、商標及著作權に關し現に日本國に行はるゝと同樣の法令が本條約の實施と同時に韓國に於て施行せらるゝことゝなすべし

右法令は韓國に於ける米國人民に對しても日本國臣民に對すると同じく適用せらるべきものとす

前項に指示したる日本國の現行法令が今後改正せらるゝときは韓國に於て施行せられたる法令も亦改正法令の趣旨に依り修正せらるべし

第二條　亞米利加合衆國政府は米國人民にして韓國內に於て保護を受くべき特許、發明、登錄意匠、登錄商標又は著作權を侵害したるものありたる場合に右米國人民が本件に關し韓國に於ける日本國裁判所の裁判管轄權に專屬すべき事を約し合衆國の治外法權は此の事に關し之を拋棄するものとす

第三條　亞米利加合衆國の所屬地の人民は本條約の適用上米國人民と同一の取扱を受くべきものとす

第四條　韓國臣民にして合衆國の法令に定めたる手續を履行するときは同國內に於て發明、意匠、商標及著作權に關し米國人民と同一の保護を享受すべし

第五條　第一條に依る法令の施行以前米國人民が日本國に於て特許を受けたる發明又は登錄を受けたる意匠商標若は著作權は別段の手續を要せず日本國臣民又は韓國臣民と同樣に特許又は登錄を受けたる工業所有權又は著作權が韓國內に於て保護せらるゝと同一の保護を本條約に依り同國に於て享受すべし

締約國の一方の臣民若くは人民又は韓國臣民が本條約實施以前合衆國に於て特許を受けたる發明又は登錄を受けたる意匠商標若は著作權は其の前記法令の規定に依り特許又は登錄すべからざる性質を有するものに非ざる限り且本條約實施後一年內に特許又は登錄を受る場合に限り何等料金を要する事なく韓國に於て特許又は登錄せらるべし

第六條　日本國政府は商標の保護に付千八百八十三年三月二十日巴里に於て調印せられたる萬國工業所有權保護同盟條約に依り米國人民が日本國版圖內に於て受くると同一の取扱を韓國內に於て米國人民に付與すべきことを約す

行名は本條約の適用上之を商號と看做すべし

第七條　本條約は之を批准し其の批准書は成るべく速に東京に於て交換せらるべし本條約は批准書交換の日より十日を經たる後實施せらるべし

右證據として各全權委員は之に記名調印するものなり

明治四十一年五月十九日即西曆千九百八年五月十九日華盛頓に於て本書二通を作る

高平小五郎　印
ロバート・ベーコン　印

●七月中の京城商況

（京城日本人商業會議所）

一洋酒　本月も引續き賣行良好なるも一般景氣引立たざる爲め昨年の同期に比するときは稍々減少したるの感あり相場は前月と變りなし

一罐詰類　本月も相應の賣行ありしも殆んど半ヶ月に渉る霖雨にて市中人氣不振の爲め前月に比すれば幾分賣行減少せり相場はパインアップルの如きは原產地稍品薄の爲め箱に付二十錢方騰貴し松茸、筍の如きも例年に比し母國に於ける製造高少なく前途を氣構へ箱に付二三十錢方騰貴を示せり

一味噌、醬油　本月も相變らず需用多きも味噌の如きは每年夏季二、三ヶ月は需用者一般に減少するを常とす然れども昨年の同期に比すれば人口の增加に連れ約一割方の需用多きを見る値段に於ては前月と變なし

一金物類　諸工事引續き盛なるに伴ひ賣行可也良好なり本月に入ては十九日以來霖雨の爲め幾分の影響は免かれざるも著しき事なく相場に於ては前月と格別の變動なし然れども昨年に比すれば賣行に於て約二割以上の減少ならん

一牛皮、牛骨　當春以來不況に陷り居たるも牛皮は當月に入り阪地相場騰貴の爲め稍々活氣を呈し相場も百斤に付二圓乃至四圓方騰貴を示せり牛骨は前月と變りなし

一燐寸　本月も前月に引續き需用多く賣行良好なり値段に於ては前月に比し噸に付約四圓方騰貴せり（未完）

小說　新不如歸（八十三）

篠原嶺葉著

唯ある岩の上に腰打掛けて語らひ居るは尾花少佐と西脇大尉の兩人である、尾花はまづ口を開いて

「實に意外な所でお目にかゝりました、日外旅順でお目に懸つた時、樣子ありげなれ辭ではあつたが、豈夫かゝる遠謀のあるなどとは夢にも思はなかつたです、眞個青木大將閣下の言はれる通り、遼陽の占領は貴方の働きで占領したのです。」

「尾花さん、私も隨分これを實行するまでには泣くにも泣けない苦勞を致しましたよ、もうこれだけの復讐すれば、私の一身は何時戰死しても、少しも遺憾とは思はないです、いや、これから進むで陣頭に立つて國家のために戰死する決心で居りますから、どうぞ、戰死した場合には遺族の身の上を何分宜しくお願ひ致します。」

「そりやお互の事です、私だつて司令部に居りますが、何時戰死爲ないとも限らないです、しかし私が無事でさへ居りますれば貴方に萬一の事があらうとも、御遺族は身に換へて御世話致しますから御安心下さい。ところで西脇さん貴方はまだ御存じ無いでせうが、私と百合さんとの間は悲しい境涯になりまして、今では互に辭を交すことの能ない在樣になりました。」

西脇は驚いた調子で、

「ゑゝッ、してそれは如何云ふ仔細です。」

「眞個お話し申すも涙の種ですが、私が旅順から歸朝して見ますると、百合さんの姿が見えないから、早速繼母に尋ねますると、繼母の云ひますには、お前の不在中に足柄少佐と離縁して丁つたと云ふのです。私も實に驚きまして種々と思慮へて見ましたが、百合さんに限つて然う云ふ猥な事する女でないと云ふ事は能く信じて居りますからこれには何か秘れた仔細があるであらうと、恁う思ひましたので、早速貴方の宅へ伺つて詳しい仔細を聞いた上で、假令母が甚麼故障を云はうとも、再び歸つて貰う決心で參りました所が、百合さんは非常の重病に罹つて、阿母さんと一緒に轉地療養中だと云ふお話でありますから私の心中は麻の如く亂れまして、どうか傍に行つて看護してやらうと思つて、轉地先を尋ねますと、阿母樣から知らせてはならないと云ふ命令を受けて居ると仰有つて聞かせて下さらないです、西脇さん、私は貴方の前で恁う云ふ事を申すもなんですが、眞個この時ばかりはあまりの殘念さに止度もなく涙が溢れましたこれは必然私が想像通り、何か仔細があるに違ひない、それで阿母さんが轉地先も知らすなど仰有るほど御立腹なすつて破任やるのであらうこれは時機を待つて其の仔細を探り出すより外に爲方がないと、失望して歸りましたが、それより間もなく出征する身の上となりまして二月十五日新橋を出發して大磯に來て計らず百合さんに邂逅ましました。」

と、彼の大磯にて出合ふた時の物語をして

「假樣な理由ですから今では互に別れた形になつて居りますが、私は決して離縁した心ではないのですから、どうか凱旋するまでに病氣が全快して居て下れるやうに、日々其事を祈つて居ります、どうぞ此事をお含みを願ひます。」

西脇も意外な樣子で、

「始めて聞いて只々驚くより外はないです、が、煙のある所には必ず火のある道理ですから、妹に何か不埒な行ひがあつたのでありませう、誠に面目次第もありません、しかし其不埒女をかくまで愛してやつて下さるゝ志は妹に代つて此義兄から厚くお禮を申します、病氣は何か存じませんが、凱旋の上は如何やうとも貴方の御存意に任せますゆゑ、宜しいやうにお願ひ申します、それにつけても返す〳〵も憎むべきは足柄少佐でありますが今宵戰死したと云ふのも所謂惡因惡果なるものでせう。」

「私は何時かは懲しめてやらうと、無念骨髓に徹して居たですが、戰死したと聞いては恨も何も一時に消えて、漫に氣の毒の感も起るのです、眞個戰死爲たのも天の配劑でせう。」

と語らひ居る間に、東雲の空は早くも白み渡つた、曉風は徐ろに面を吹き拂ふのである。



東京電報

極東外交の變化

對韓政策の進張

歐米列强の極東に對する外交は清國を中心として日本に向て傾注せり、清國保全は列强の常套語として繰返さる、日露協商、日佛協商と云ひ、清國保全を確實にする協約に過ぎず、日英同盟すら或意味に於て清國保全を間接に擁護するものと云ふも可なり、而して獨り列强は常に日本の清國に對する態度に注意し、較もすれば其眞意を誤解せんとする傾あり、現に米國に於ける米清同盟說の如き假令私人の言とするも偶々胸中の秘を漏らしたるの觀あり、日本の自衛上是非共經營せざる可らざる滿洲に於ける施設を見ては、日本の勢力が清國に於て非常に[illegible]の狀態は寧ろ憫笑に價ひすべきなり、若し斯の如き眼を以て露國の滿洲開拓、外蒙古經營、英國の揚子江經營等を見れば、露國が極東に對して大野心あるが如く見られざるに非ず、佛國の東京に於ける、獨逸の膠州經營の雄大なる皆之れ自國利益の防衛にして、決して清國に對する野心あるに非ず、然れども列强が斯の如く日本の清國に對する態度に特殊の注意を拂ふ所以のものは、全く列强が清國に重きを置くが爲ならずんばあらず、今や列國の極東外交は一に清國に集注しつゝあるなり、而して此形勢が何時迄も現狀の儘なるべき乎、是れ即ち問題なり、清國の國情にして變ずることなくんば、亦た列强の外交も現時の如く保全を以て續くべし、然れども清國の國情は如何、清國の西太后は齡既に高く、永く垂簾の政を見ることは或は不可能ならん、然るに滿洲族の政權を倒さんとする革命軍は屢々起り、鎭定すれば更に亦蜂起す、到底之を根絶することは難かるべし、革命軍なるものは滿族に對する漢族の復仇と云ふも可にして、漢族と滿族の軋轢なり、稍々[illegible]ざるも、我が德川幕府に對する薩長の如きのみ、故に此儘にして經過すれば漢族は其反抗を止めざるべし、聰明なる西太后は茲に見る所ありて立憲政体を採用して漢族の反感を和げんとするに至り、[illegible]北京政府にして此挙に出でんとすれば、漢人の反抗を怖るゝ所以なり、而して問題は立憲政治の發布によりて能く漢人種の反感を和げ、滿漢兩族が和衷協同して國運の發展に努むべき乎、[illegible]滿に統一せらるべき乎、目下の現狀より推測すれば漢人の革命思想は容易に拔く可らず、內亂は到底其跡を絶つ能はざらん乎、立憲政治が布かるゝ場合に於ては却て漢人の勢力を增加する現象を生じ來るやも知る可らず、之が滿漢分界の如き奇異なる現象の來らざるども限らず、要するに清國の前途は尙は波瀾あるを免れざるべし、茲に於てか列强の外交は勢ひ變せざるを得ず、現に日英露が清國に對する特殊の條約を締結せんとするの說あり、列强が清國に對して重きを置くだけ、其外交に於ても何時變化あるやも知る可らず、日本と清國との關係に就て列强は如何なる協約の締結を申來るや謀り知る可らず、等しく極東問題として韓國問題に波及し來らずとも斷言し難し、今や列國の外交は神出鬼沒如何なる變化を來たすやも計られず、日清戰役の結果日本の領土と確定せし旅順大連が或る外交の爲に忽ち還付せるに至れる如きこともあり、寸善尺魔、韓國に對する方針の如きも速に確定し、列國外交の波及を受けざるの程度迄に進張せしむるを肝要とす、日本の對外政策は往々富士登山者が流汗淋漓[illegible]に七八合目に達したるときに暴風の爲に顚下するが如き觀あり、韓國經營の如きも漸く七八合目迄に達したるなり、極東外交の變化の爲に若し顚倒するが如きことあらば由々敷大事なり、今に於て宜しく確固不動の施設をなすべきなり、偶々極東外交の形勢に感ずる所ありて、對韓政策進張の急務なるに論及す、余輩は深く當局者の猛省を促すなり、

漢城便り

▲過日韓皇の德壽宮を訪わせられたる節佛例大漢門附近は拜觀人を以て充され中に候見事なる騎兵隊車及皇帝旗は李朝の隆運を語り申候拜觀人中一洋人あり獨語して曰く「世界の各保護國中大皇帝を有するは只り朝鮮國有るのみなり」と。

▲大皇帝を上に戴く朝鮮國民は世界の各保護國民中に在つて特殊の名譽を獨占するものと被存候但し此名譽は吾人日本移住民が共に冠すべきものなりや否やは伊藤公の判斷を俟たすしては決定難致候。

▲博士梅謙次郎は溫厚篤學の士と及聞申候而るに氏は何を戶惑つてか此頃於安東縣在韓邦字新聞の對統監態度に付不平がましき言を洩されたりとの事に有之候博士の聰明なる叛逆に總ての新聞紙が京城日報の如くなれと望まるゝ譯には無之かるべしと存候「わけのぼる麓の道は多けれど同じ雲井の月を見るまで」御待ち然るびよう存候。

▲梁起鐸事件は今やカスミガセキとダウニングストリートの交渉案件と相成候との事に御座候八百屋お七の火は江戶全市を灰燼と化し申候一獄卒の不注意は保護政治の飛んだ廣告を世界に致し申候。

▲長々發行停止中なりし同業大韓日報は昨日解停相成申候續て來るべきものは同業朝鮮日々の解停ならんかと被存候主義は殉せしむべし新聞規則には殉せしむべからざるものと存候。

雜報

旅行中の韓太子

韓太子は伊藤統監一行と共に十七日午前九時二十六分舞子を發し十一時大阪着高崎大阪府知事は舞子迄奉迎せり服部兵庫縣知事は神戶に奉送せり梅田停車場には井上師團長、古莊控訴院長、其他裁判所長、稅關長、市長及び各文武官の奉迎あり太子には豫定の如く大阪ホテルに入らる沿道の市民學校生徒の歡迎盛なり午後太子統監一行は師團司令部を訪ひ井上師團長の先導にて大阪城を觀覽後天主閣に昇り大阪全市を展望せられ終て砲兵工廠、造幣局を參觀せられたり、大砲、砲車の製造、金貨の鑄造等は太子に一倍の興味を添へ太子はホテルに統監一行は灘萬に投宿せり十九日奈良を經て宇治に赴かる韓太子よりは舞子小學校へ金五十圓を下賜されたりと

統監府會議に就て

一昨日統監府に於て曾禰副統監初め石塚參與官其他幹部の各官參列して會議を開き重要なる事件に就き凝議せしことは既報の如くなるが聞く所に依れば同日の協議事項は東洋拓殖會社設立に就て韓皇室の引受株同會社に韓國政府が與ふる特權及び創立委員の撰定等なりしが如しと

大臣會議

昨日午前十時より李總理大臣其他各大臣統監邸に參集し定例大臣會議を開けり

參與官定例會議

昨日午前八時より曾禰副統監、石塚、岡、俵、倉富の各參與官及び木內次官代理中村技師等參集統監邸に於て定例會議を開けり

忠清北道の郡守會議

忠淸北道觀察使は本月一日より管內郡守を召集し郡守會議を開催したるが十五郡中出席者十二名あり左の諸諮問案を議したりと云ふ

一面洞長の改良刷新に關する件
一產業の奬勵に關する件
一地方自治に關する件
一教育普及に關する件
一暴徒鎭定に關する件
一種痘に關する件
一出產死亡屆に關する件
一宗教其の他の團体に關する件
一歸順者に關する件
一自衛團に關する件
其の他地方行政事務に關する件

尙會計事務其の他事務取扱上の注意事項十數項を示したりと云ふ因みに他の各道も郡守會議を開催する筈なりと

平安北道裁判所鎖閉

新裁判所設置の結果寧邊なる平安北道裁判所は管轄權に依り夫々平壤地方裁判所及び同區裁判所に事務引繼を了することゝ爲りたるを以て七月三十一日限り閉鎖し引繼書類は全部本月五日平壤に發送し未決囚廿一名は平壤監獄に押送する筈なるも同監獄よりの交渉に依り一時寧邊に止め置く事となせりと云ふ

平北觀察府移轉期

寧邊なる平安北道觀察府を交通上の便宜により義州に移轉せらるゝ事となりしは幾に報導したる所なるが義州に於ては以前觀察府廳舍たりし建物に修理を加へて使用する事となり近々此れが修理に着手し九月下旬に移轉する豫定なりと云ふ

郡吏と日本人

地方行政の刷新を圖らんとせば先づ觀察府及び郡に多數の相當なる日本人官吏を任命すべしとは屢々說かれたる所なるが經費の都合上假令に實行するを得ず當局者は先づ模範的に少數の郡に日本人官吏を任命し漸次に地方官廳の刷新を圖る方針なりと云ふ

漢城府民團の祝賀

來る二十七日は隆熙皇帝即位式第二回紀念日なるを以て漢城府民團に於ては盛大なる祝賀會を催さんと過日來之れが準備中なるが當日漢城府民團にては頌德表を奉呈すると共に紀念として銀製香爐一對を獻納することに決し午後三時より寶會樓に於て官民合同の祝賀會を催すことゝし夜に入ては府民團の提灯行列を行ふ筈なりと

木浦有志の請願

木浦民團議員諸氏は去る十日民長官選の統監府令撤廢請願書を呈出するの決議をなしたりしがいよ〳〵昨日左の通り請願書を呈出したり

謹んで請願す

今回統監府令第廿三號を以て居留民團施行規則第五條を改正し「民長は統監之れを任免す」とせられしは各地民團の擧つて反對する處にして下名等も又た該府令撤廢の希望者に御座候

一、官撰民長は民團自治の精神を沒了す
自治体の代表者を官撰となすは絶体に不可なりと云ふ可らず殊に殖民地に於て其の代表者を政府より任命するの例なきに非らず左れど之れ全く一二特別の場合に過ぎず一般の原則としては固より公撰法を執るべきものたるや論なし況んや今回の如く一旦與へたる公撰權を剝奪するが如き毫も其の理由なきのみならず徒らに民團自治の精神を沒了するに過ぎず

二、官撰民長は議決機關と執行機關との平和を永遠に破壞す
公撰民長は居留民と利害休戚を同ふし之れを撰出せる民會と相互の意志自然の疏通を見るものなれども官撰民長は之れに反し官憲の認めて適任なりとする所必らずしも民間の輿望に合せざるの局議決機關と執行機關との平和を永遠に破壞す

三、官撰民長は居留地の歷史と背馳す
居留民團施行規則の發令は一昨年七月以後にして日尙淺しと雖も各居留地自治機關の運用は何れも皆數十年の古き歷史を有するものたり當木浦居留地も開港以來玆に十一年居留民一般が他居留地に比し格段なる和衷協力を以て公私諸般の事業を經營し今日の進步發達を得て其間何等の故障を見ざりしは韓國十二民團中密かに當地居留民の特色なりと爲す所然るに今や突然民長公選の權利を剝奪す官選民長は居留地の歷史と背馳せる悖理的施政なり

以上の卑見に基づき下名等は玆に統監府令第廿三號の撤廢を希望致候也

又々萬朝報の反對論

曾禰副統監は頑として韓國居留民の民長官撰を改むるの意なしと此の如くして我國民の海外發展を阻害せんとする我官僚の愚は殆んど濟度すべからざる者なり我國民は尙之を默視せんとするか

大韓日報解停

同業大韓日報は民長官撰問題に關し發行停止中の處昨日其筋より解停の命に接したるを以て本日より繼て發刊する由なり

漢湖農銀の支店設置

漢湖農工銀行は今回の株主總會に於て忠州公州の兩支店を廢して出張所となし新に太田に支店を設けて此れを監督せしむる事となし來月十五日より開店する筈なるが右は餘程以前より太田なる日韓商が同地に金融機關の設け無く取引上頗る不便なるを以て同銀行の出張所又は支店を開設されたき懇望ありたるも資金其の他の都合上直ちに開設する能はざりしを今回種々調査の結果支店を開設し同時に右の兩支店を出張所になす事とし先月の株主總會に於て滿場一致を以て可決したるものにして開店の上は農工銀行並に普通銀行の業務を取扱ふ事となり支店長其の他は目下人選中なりと云ふ因みに同銀行は目下江景、開城、春川の三支店あるが今回の新設にて四支店二出張所を有する事となりたるが近時韓人の金融機關を利用する事を悟れるもの多く何れの支店も事業を擴張しつゝありと

仁川港灣調査進捗

仁川港灣改築の準備調査として昨年末より同港灣の海底地質調査を續行し既に九個所の調査を終了し目下第十回調査を續行し居れるが度支部建築所仁川出張所に於いては更に穿鑿機械を增設して次回より二三四個所の地點を調査する由なれば本年末までには二十個所以上の調査を完了し得べしとなり

仁川埋築工事竣成

仁川稅關の埋築工事(一萬餘坪)は既に完了したるも先月下旬の豪雨の爲め地面に凹所を生じたるに依り目下之れが修繕を兼ね地均らしをなし居れるが本月中には竣工すべく次いで直ちに稅關廳舍及上屋倉庫の設計に着手すべしと

千早の海賊搜索

海賊出沒地點巡邏の爲め海州方面へ出發したる軍艦千早は昨日零時二十分再び歸仁し一昨日入港の水雷艇鵲、鴻、鶉の三艇を從ひ本日再へ海賊搜索の途に上る筈

海賊警戒

仁川水產組合にては漁業地に於ける海賊警戒の爲め十五日午前九時蘂遊島附近に向け巡邏船を出したり又仁川警察署よりは巡查二名を之れに乘組ませたりと云ふ

韓人夫暴行詳報

瑞興電報によりて報道し置きたる韓人夫暴行の詳報を聞くに本月十日瑞興郡興水院なる飮食店に於て韓人土方七名飮食し各一人の負擔七十錢となりしが彼等は其の代金を支拂はず六名は其の儘立去りたるを以て店主は居殘れる一名に對し無錢飮食の不法を責めて此の趣を統首に告知せり然るに土方等は躁で常に興水院に來りて飮食し更に代金を支拂はず酒商飯商等總て七八十錢乃至五六圓宛の貸掛代の滯り居る折柄なれば統首は說諭を加へて此等の支拂をなすべしと戒め若し肯ぜざれば告訴すべしと述べしに土方等は忽ち激昂し廣松組の配下中村孫一の使役せる人夫等五六十名と共に各自棍棒を携へて襲來し各家に亂入して暴行を逞ふし遂に打撲傷者三名(重傷)家具及び門戶の破毀三十三戶を生ぜしめ急報によりて日韓巡查五名出張せしときは最早暴行者の多くは逃走したる後にて漸く七名だけを捕へたり又憲兵隊にても四名を捕へ之れが敎唆者を取調中なり

日本帆船の難破

鎭南浦なる石井友次郎所有日本帆船日吉丸(二百石積)同地五島榮藏所有同敬神丸(三百石積)同地村谷市助所有同勇榮丸(三百石積)の三隻は[illegible]に於て木材を積載し鎭南浦に航行中六日午後八時大同江口に於て暴風に遇ひ日吉丸の外二隻は難破し日韓人三名生死不明となり積載貨物及び船舶の損害三千六百圓を生ぜりと

關東學會總會

は十六日午後一時より鐘路靈谷に於て開會五十名の出席者あり前會々錄の朗讀江陵郡支會の認許及收金委員康大植李東根文基哲より援助金に關し報告をなし最後に會長南宮億は起て本會創設以來一定の事務所なく非常に困難を極めて居たるに今般此鞋廛都家を買收したり而して之に要せし金員は一時該家屋を典質して支拂たるものなれば諸君も事情を諒察の上速に義捐金を納付せられたしと演說し午後三時散會したり

嶠南教育會總會

は去る十六日午後三時三十分典洞嶠南の事務所に開會出席會員五十八名にして諸般の報告をなし次に會長李夏榮辭任に付其後任に朴晶東を撰任し尙ほ圖書部長に孫唐鉉を評議長に申吉熙を選任し午後六時散會せり

棧橋用材注文

仁川稅關埋築地の東端に新設せらるべき鐵道大棧橋は先の稅關工事部員及仁川出張所員の手にて設計せられ居たるが此程其設計を終りたる由なれば近々東京製鐵會社に向け之れが注文をなすべしといふ

仁川信用組合認可

豫て認可請願中なりし仁川信用組合は昨日信夫理事官より認可されたり

仁川洗濯組合と理事官

仁川洗濯業組合取締の件は昨紙既報し置きたるが信夫理事官は之れに對し寧ろ取締る迄もなく直ちに解散を命ずる考へなりといふ

村田明石兩將消息

北韓視察の途にある村田少將、明石憲兵隊長の一行は十四日元山着十五日新浦十七日城津に着し十八日鏡城に向はれたり

內相の地方巡視

宋內相が地方行政の刷新を圖るため自ら各道を巡視して地方官を監督し且つ施政の參考に供すべしと歸り居る事は屢に報導したる所なるが愈々來月中に出發し各道觀察府の所在地を巡視する筈にて澤田地方局長隨行すべしと云ふ

鹽谷教授來京

東京文科大學教授鹽谷時敏氏は滿州各地方漫遊中なりし昨日午前平壤を發し同夜入京されたり

公人私人

▲多木粂次郎(多木肥料會社長代議士)一昨日出發歸朝の途に就く
▲平野房太郎(多木肥料會社技師)同上
▲深川傳次郎(新義州副理事官)一昨日歸任
▲森元俊之助(水原森林事務所長)一昨日上京三日月旅館

近事片々

▲伊藤公舞子に於て訪者に答て例に依りて豪語せり其意氣蓋也矢張太平の宰相たり
▲日く到底樞密院に入るを許さず韓國統治の大任あるを以て也と意氣堂々大室に橫る
▲民長官撰は適任者を得ると民團經濟上より勵行せる者反對說は總て無意味なりと
▲世の中に隨分獨斷的のものもあるが此位獨斷的の理屈は亦たとあるまいオー怖や
▲官撰は適任者を得るとは何の事か夫は自分が見て適任者と思ふだけ也是れ非理也
▲反對說は總て無意味とは何たる囈語ぞや虛心平氣に反對說を更に閱覽するが肝要
▲何でも自己のすることと計り善なりと考へるから何時も失敗のみする也自惚は禁物
▲反對說は總て無意味杯とは何處を押せば斯る音が出るか餘り呆れて物が言へぬ
▲麒麟も老れば駑馬に等しとは名言なり
▲曾禰子曰く僕を山縣系と云ふが僕は下院翰長より大臣になる伊藤公の[illegible]なりと
▲春畝公もヨモや斯くまでとは思はざりし噫
▲伊藤公には長短あり僕は長所を學ぶ[illegible]は長短共に學ぶ傾ありと之れ果して事實乎
▲韓國經營に於ては余り伊藤公を學んでは在住邦人が困ると京童は言囃し居れりと
▲民長官選に對し反對說は無意味なり杯と唯我獨尊主義を學ばれぬ樣にと御賴申候
▲伊公は由來外國とやらには弱く自國民に强ひとは明治十八九年よりの評判にて候
▲斯ることは國民の發展には大妨害に候間何卒短所として御學び無之樣偏に願上候
▲私立國民議會なる者起る頭山滿大井憲太郎河野廣中石川舜台岡本柳之助等の顔觸
▲私立國民議會とは甚だ振て居る其顔觸も振て居る皆當世を慨する正廉の古武者也
▲眞實國民の輿論は之に發揮せらるゝやも知る可らず兎に角近時痛快の目論味面白し
▲此等の人は帝國議會を目して官立非國民議會と呼ぶに至るべしさは例の京童囂口
▲早稻田擬國會も益々揮ふ却て帝國議會よりも眞面目で熱誠有識すべき議論多し
▲今亦此私立國民議會設けられんとす之に依りて帝國議會に反省を與ふるは最も妙也
▲紐育ヘラルドの米清同盟も伍廷芳の之に對する聲言も無根として打消さるゝとは妙
▲列國に批難起りし爲に無根として打消したるか[illegible]の外なし

短編小說

指環 上の一

青楓作

新へて續いて降るもふつた、二十日の雨に、世人は老ひたるも、若きも、男子も女子も皆一樣に、愁眉をよせての陰氣な顏に黴臭かつた鉢鑑も如何なる神風の吹き廻しにや天はガラリと霽れての今日の清々しさ

統監府通譯生の立見信平は、同僚の中尾四郎とて、數日來缺勤して居る友の、如何した理由かと心配の餘り、貞洞は、綠葉鬱蒼たる佛蘭西領事館隣の、中尾の宅を訪問たのである。

軈て書齋に通つた立見は、眼は窪み、頰肉は落つて顏青褪めた友の、いたくも消衰へた樣子を見て、

「何うした、時候が惡いのでスツカリ瘦られたな。」

中尾は、怨めしそうに立見の顏を見て、ハラハラと落ち來る淚を拭ひもせず、立見の手を握つて、

「立見君ツ、と……此の手紙を……よ……讀んで見給へ。」

中尾は、起つて机上から一通の封書を取り投げるやうに立見の前に置いて、自分も亦ドツカと座つた、立見は手紙を取り上げて

「オヤ、芳子樣からの手紙じやないか、一體如何したと云ふのじや。」

と立見は、親友が泣いて訴へる此のレターア、其處には、五尺の男子を泣かしむる、何等秘密がなくてはならぬと、斯ふ心の中に期して、且つは疑ひ、且つは怪訝み乍ら手紙を擴げた、

降りみふらずみの長雨も今日こそは今日こそはと晴るゝ日をのみ待つ甲斐もなくて十日餘のドシャ降りに心も堪へ難なき鬱陶しさを感じ侍り候

さて果敢なきものは實にや人生の行路と今更に被思候、妾一度御君を深くも契りし綠はいかで遂げずして止むべきかはと固く期し居り候、さるにても如何なる惡魔に魅入られしかゝゝに御君と二度逢はれぬ仕儀と相成候、ろは過ぐる月早稻田大學生一行の滿韓旅行の途次妾が草屋に立寄られし一人の學生名は大屋滿とて曾て妾が父の友なる人にて東京は京橋邊の某銀行の頭取を勤むる大屋要樣の御子息にて在すよし後にて父より承はり候、其の後父と大屋樣この手紙の往復ひと繁くなりしが一夜父の仰せらるゝ樣「汝は大屋が許に嫁くべし」と妾三度二度强て拒み候ひしも頑固なる父の一徹に最早妾の萬一の綱も切れ果て申候ていよいよ來る日妾は長ひに恨を吞んで南大門を出發致すべく候、嗚妾は今多くを語るを得ず希くば御君よ妾が盡きざるの罪を許し給はれ、さらばよ、御君健在なれ。

中尾四郎樣御許へ 秋間芳子

立見は讀み終つてたゞ友の顏を眺めるのであつた。

●大師殿の失敗

相手は吳の尤物●れ老爺さんは嫌ぢやけん●末世の有樣

さても其の後伊藤大師殿には平相國に因緣深き藝州は吳の港へと成らせ給ひ十二日の夕方水交支社の宴にと臨まれたるが更闌け月傾きたる頃千鳥足よろよろと岩崎、古屋を隨へさせられ山內長官をも召して旅館吉川へと引取り更にウヰスキーの洋盞を取りてガブリガブリと傾け給ふ、折から鑼て招き醮きたる吳券番の美形十五六名盛裝を凝らしてヅラリと御前に居並びたるに不思議や大師殿の御眺は見るみる中に三十六度の角度までブラ下り眼は鷂の如く織りて笑は滿面に溢れたり、その纖き眸子の中に映じたるは半玉上りの雛子（十七）といふもの、忽ち恍惚とならせられて恐れ多くも手に持つ洋盞までバタリと取り落し給ふ、この體を見るに見兼ねて山內長官はソコソコに暇を告げ岩崎、古屋も額を叩いて逃げ出し偖は神戸より召し伴れ給ひしぽん太、かる太の二人の化生のものまでツツと席を外したり、唯一人取り殘されて紅燈の下に悄然と項垂れたる雛子の姿を大師殿はヂツと目懲れ給ひ機會こそ好けれど膝を一搖搖つてツと雛子の手を握り給ひたるに可憐の美形は有らう事か有るまい事かアレと叫んで其の手を振り拂ひ腰も露はにバタバタと駈けて他の室へと逃れ出でぬ、と見るより、仲居は燈を消して仰天し、大師は口を開けて惘れ、月は白み、燈火はジゝと鳴る、さて斯くてあるべきにあらねば仲居はやがて雛子の跡を追ひ襟髮摑まんばかりにして、まア何といふ不作法ぞ無禮ぞと叱れば、雛子は濟し切つたる顏にて「妾は彼んなれ老爺さん嫌ぢやけん」と答ふ、コレコレ勿體ない身の冥加を知らぬも程こそあれと多くの仲居等ウヨウヨと集まり來り寄つて群つて叱れど賺せど雛子は「嫌ぢやけん」の一點張に取りつく島もなかりけり、大師はつくづくと此の旨を聞し召され去らば詮術なし國榮

▲▲小說豫告▼▼

……夏季の好讀物……

速日江湖の喝采を博しつゝある、悲哀小說「新不如歸」は愈いよいよ數日の中に全編を了り、名殘り惜しくも大方の讀者諸君をして、悽惋沈痛の餘情綿々として長へに禁ずる能はざらしめんとす、依つて本紙は更に從來の作者篠原嶺葉氏に托し「皐月闇」なる長編を揭げんとす、筋書は明治最近に於ける或る華族の御家騷動を脚色したるもの、構想怪奇、情趣幽婉、或は佳人暗淚に咽び、百鬼夜陰に囁やき壯夫世道を慨する等、波瀾重疊、變化多樣、克く現今上流社會の裏面を派羅剔抉して毫も餘蘊なし若し夫れ作者が洗練老熟の筆と、優婉華麗の詞とに至りては既に業に讀者の熟知する所、所謂情想、文彩兩ながら相俟つて正に錦上花を飾り、花下雪を飛ばすの美觀を呈するべし、請ふ讀者刮目して、揭載の日を俟ち、之が內容と實質とに就て徵せられんことを

▲▲次回小說豫告▼▼

……夏季の好讀物……

●自然主義者の煩悶

或る役所に判任官位の資格にて日々汗水垂して出勤する靑年あり名は暫らく預りとするが此靑年大の自然主義者と見へ兼て下宿せし某下宿屋の下女が朝飯や晩飯の給仕の仕振りが何處やらに色氣を含み耻かむ姿の艶なるを見て取り直ちにヤイノーを極め込み遂に說落して嬉しい契りを結びたるが幸ひ兎角下宿屋住ひは不經濟なりと右の下女を引連れ或る所に家を構へ例の韓妻となし二人睦まじく痴話などよろしくありて其日其日を暮せしが自然主義の因果は忽ち現はれて下女否韓妻君は酸の物慾しがる樣になりれ腹は次第に膨れ出し今は餡細工の狸然として肩で息する七ヶ月になり若しも此腹の子供が男の子であつたら海軍に入れて外國に留學させて天晴れ大將になすなど云つて朝夕月の滿つるを樂み居れるが此に辟易一聲二人の頭上に落ちかゝつたのは二人のことが鄕里にある親爺に知れたので親爺は大に驚くより以ての外不都合なりとて大に怒り近日中此方から嫁を伴ひ渡韓するから其女と手を切れとの意味なりしかば二人の驚きも亦一方ならず韓妻君は如何したら良かろうと泣き出し靑年は頭を押へて思案に暮るゝ矢先鄕里よりは靑年の長官へも此事を云つてやつたので長官も此手紙を見て大に驚き直ちに膝元に喚び付ツツ怪しからぬ不埒な奴早く其女と手を切るべし若し切らぬに於ては直ちに絶職すべしとの一ツ引ならぬ大目玉を窠むりしかば其場で直ちにれ何どの緣を切るされ受けして引下りたるも元より惚れた女と云ひ且つ七ヶ月の腹となつたことゝて緣を切れば別れが辛し切らねば免職さる如何したら宜からうか身体此に谷る何と好い工夫はあるまいかと目下煩悶中なりと

●新なる出齒龜式實行所

自然主義の本場出齒式の實行所は南山公園とのみに限られ居れど近頃は同公園もあまりに此の種の密會甚だしきより今度は河岸を替へて他に轉するやうになりしがサテ新奇の場所といふは鐘路の裏通南大門驛の裏手及び西小門の城壁の上手等なるが現に昨夜の如きは西小門の城壁の上手の所にて此から大に出齒らんこともしさうな男が年若き女の手を握り何にか囁き居りしが背の口より十一時頃に至る迄五六組は確かに見受けたり次にある警官の話に依ると昨今は彼等出齒式の實行所がソコ等爰等に出張所を設けし故僕等の仕事も亦なかなか忙がはしくなれりとか

●日人と名乘りて騙を働く

去る十六日韓人某が妓生數名を携へて西大門外奉天寺に遊宴したるに洋服を纏ふたる一人の韓人來り某に向ひ警視廳の認許を得て來りたるかと問ひしかば然らざる旨を答へたるに彼は何人と雖も警視廳の認許あるにあらざれば寺院に遊宴をなすを禁止せられたれば汝等は之れが認許を受けずとあれば罰金拾圓を出すべしとて拾圓を騙取し余は日本人にして別巡査を勤むるものなりと云ひ捨て立去りたりと



●預金騙取者起訴せらる

宮城縣牡鹿郡石卷町百三十四番地平民出羽染造は六月廿八日の晝同郡同町字裏町及川小八郎方に侵入し小八郎所持の金員四圓及び同人妻それ名義の貯蓄預金通帳及びその實印を窃取し續いて同町所在株式會社宮城貯蓄銀行に於て右通帳を以て預金三十一圓五十錢を騙取したるまゝ當京城へ逃げ來りたる者なるが一昨日當理事廳に於て起訴せられたり

●醉漢ヨボの亂暴

花園町三十八番地精米所中川方雇金明光（三十）は一昨日何處で吞んだものやらグデグデとなるまで醉つ拂ひ步行も叶はぬながら行人を捕へては惡口雜口の醜態を演じつゝあるを丁度墨洞橫町を通りかゝりたる巡査に押へられたるが此奴中々の亂暴者にて巡査の服を破るなどの暴行を働くにぞ警察署に引致し昨朝七時迄留置嚴く說諭を加へたる上放還せり

●上手ぶる勿れ

大和町一丁目百四十九番地廣松組店員濟岡喜代吉（十九）と云ふ坊が一昨日午前十時三十分ころ自轉車に乘り汗水たらして泥艰を驅け抜け上手ぶつて後ろを振り向きたるが怪我のもとで長水橋徐錦奎なる銀房の店で遊び居たる北部苑洞朴定王（十三）の腰より頭部にかけて衝き當てたので何條たまるべき定王は其場に橫倒れ耳邊及び左頰に怪我をなし出血淋漓之れでは堪まらぬと錦奎と喜代吉の二人にて永樂町山本醫院に擔ぎ込み早速治療を加へたり

●無法なる雇主

旭町二丁目二十四番地雜貨商今福利一は一昨日午後五時頃自宅より旭町一丁目岡田商店まで木炭一俵を成興俊なる擔軍に運せたるが利一は其賃銀を拂はざるのみならず拂つた態にして賃銀六錢を丸儲けせんとのよからぬ魂膽を抱きけるがなんぼ馬鹿な擔軍も此の暑いのに只奉公は出來ませんと再三再四利一の宅に攻めかくるより利一は亂暴にも聖俊を毆打し出血せしめたるより聖俊は其のまゝ南部署に訴へ出でたり然れば南部署にては直に聖俊に應急手當を施し利一には警察署の厄介となれり

●韓人理髮業者の打合せ

在京城韓人理髮業者四十名は一昨日寫學洞三統三戶金勝運理髮店に會合なし種々協議する所ありしが其要旨は理髮錢を一定し日本人側よりも廉價に勉强し以て同胞の來客の多からんことを努むることゝしたる外七八條の規約を作りたるが其規約は日本人理髮組合に於ける規約と相似たるものなり

●拾ものひ

一昨日午後三時后洞派出所へ東洋時報一部朝鮮一部を拾得して屆出たり持主は何處の何某です

●約束が違ふ

櫻井町四十六番地木挽職安藤常吉は一昨日午後十一時自宅前より或る處まで七錢の極めにて苧洞安永俊（四十）の車に乘り其處まで行き下車して七錢を拂はんとしたるに永俊は十錢を請求して止まざるより二人同伴警察署に訴出たるが常吉より八錢を支拂ふことゝなり引下る

●豆毛浦の架橋

龍山騎兵隊に於ては一昨日豆毛浦の架橋をなせりと云ふ

●演藝だより

▲歌舞伎座 同座伊東一座今晩の出し物は柳川春葉氏作「心の影」と極りたるも役割は未定なり

▲本町座 同座今晩の替り狂言は「芦邊草」にして其重なる役割左の如し

根來寅吉（田宮）夫人定子（今井）義山和尚（石巻）家令大野（葉山）妹たれ米（堀江）紳士立花（土居）佃玄策（南郷）赤木軍藏（中川）機關士森（松本）乳母れうた（小泉）紳士松浦（秋山）醉漢高藏（秋岡）工夫米公（佐藤）百姓權助（喜多）愛妾れ英（三浦）藤島男爵（敷島）女中れ廣（四位野）藝妓高砂（島村）寶田公爵（白川）

○（平）○（民）○（文）○（庫）○

數年來機關士機關長の職にあり相當の免狀を有す渡韓日尚く未だ其道の知人なく就職を得ず若し雇ふ人あらば本欄まで住所氏名御通知あらば早速履歷書を送る（希望生）▲靑年活動生に告ぐ語學研究に就て良教師を捜し居らるゝ由なるが本町六丁目に韓語學會があるから同所に至り研究さるれば宜いでしよう（小僧）▲當地にて營利的にあらず懇切鄭寧に英語の初步より敎授せらるゝ篤志家はなきか當間はパンを得るに汲々たれば夜間若しくは餘暇を利用して敎らるゝ人あらば其御住所及び姓名を聞かし被下度候（靑年活動生）▲僕が先日永樂町一丁目通行の際日本人巡査が二人佛國敎會堂の橫の塀側に立ち小便をやるのを見た若し僕等が小便するこそせば如何怒ち二十錢の科料に處せらるる此處等が役得とでも云ふものだろう（實見生）▲諸君成効するまでは決して戀をするものではありませんよ換言すれば修學時代に於ける戀愛は人生悲觀の導火線でありまず（實驗生）▲諸君は功名の念に驅られ驅られて初めて偉丈夫となるものですよナポレオンは功名の爲めには最愛なるヂヨセフインさへも離別したではありませんか（英才生）▲僕は女に惚れた事はあるが惚れられた事がないヤハリ黑燒を利用すべしですかね（フラレ生）

老妓 茶羅次の身上話（十六）

◎意氣な遊び

醉ふて愈々面白うなつた彼女は三味線を引きよせて調子低くにサワリをつけ話の間を爪彈の小唄に其昔を忍んで居たが

唄でも何でも昔の方が味がありますね流行ものにしたからつて何處かにオツな所がキツトムいましたものですが當節では夫れがありませんサノサ節にしろラッパ節にしろ實のところ感心する樣なものは一ツだつて無いぢやアありませんか然し宜くしたものであれで客樣が納まつて入らつしやるばかりか夫れをやらないと何だか藝妓で無い樣に思召す方がお見えになるから私し藝妓なぞは坐付か濟むか濟まないに『妾だつて……』てな事でお茶を濁して居られるのですても私は好きで藝妓をするのぢやないが……から夫りやア樂なもんでさア

久しい後でムいましたがね伊勢勝（西村勝三）さんが新世の中が和洋混合になつちまつちやア意氣な遊びも此れからは出來なからう氣の合つた同志で昔風に一日騒いで見樣といふんで依田（學海）先生に先達死んだ竺仙さん夫れから歌舞伎座の三州屋の女將なんていふ連中が金子に集つてスッかり今の灰カラを封じて遊びましたがナカ／＼乙でムいましたよ電燈なんていふものは以前無かつたものですから無論消しちまいまして灯は殘らず蠟燭にして貰ひ入口の七軒を作らへて若し現今の言葉をつかつた人は容赦なく罰金を取るといふ定でしたから名々覺悟をしては來ましたもの丶ウッカリ袂から卷烟草を出しては失策る方があるかと思やシャツを着て來て尻尾を押へられる今何時だらうと謂つては罰金を取られるといふ鹽梅でいや其騷ぎつたらありませんでした中で一番可笑しかつたのは罰金を取り上げる掛りの方が其處でも此處でも失策て罰金が面白い樣に集まるので嬉しくなり何兩何分といふ筈の所をツイ嬉しまぎれに忘れッちまいましてイヨーしめ／＼罰金がもう何圓何十錢たまつたつて怒鳴つたから堪りません夫れ掛りが定を破つたといふので皆さんが承知せずトウ／＼罰金取りが罰金を出すやうなことになりましたが此れなぞはナカ／＼愛嬌がムいました

平常人車に乘つて入らつしやるた方でも其日ばかりはテク／＼歩きて金子へお越しになりましたが或る方なぞは淺草の仲見世で玩弄物の籠をおもとめになり夫れを肩にかつぎましてね頬冠りにチン／＼端折ホイ籠ホイかなんかで繰り込みましたが鳥渡洒落てるぢやアありませんかお土産にお持ちになるものにしても皆な昔のものばかりで隨分缺つたのを御持參になつた方もありましたが妾は土手の金鍔をもつて參りました

●新聞料　▲一枚金二錢▲一ケ月前金卅五錢▲三ケ月前金壹圓▲六ケ月前金貳圓▲郵稅一ケ月金拾參錢

●廣告料　▲五號活字十九字詰一行金十錢　廣告五號活字十九字詰一行一回四十錢▲特別

發行兼編輯人　秋山忠三郎
印刷人　高木久馬太
發行所　京城新聞社　京城西小門通　電話六三番